

「人権と私」

阿南中学校 三年

林田 隆佳

(敬称略)

人権というのは人が生まれながらにして持っている権利のことです。一人一人は異なる価値観を持った人間であり、全員が生きて権利を持っている。しかし、これらの生きる権利を冒し、踏み躪っている差別が世界にはまだ数多く残っています。では、なぜ差別や人権侵害はなくなるならないのでしょうか。それは人の自己中心的な考えにあるのではないかと思いましたが。

私の人権について深く考え始めたのは昨年二月の普段通りの朝でした。いつもと違うところはテレビや新聞、ネットニュースが三ヶ月間、同じ話題で持ち切りだったことです。ウクライナへロシアが侵攻したことは世界だけでなく私一人にとっても大きなニュースでした。このニュースが報道される前は、私にとっては戦争や紛争はなんとなく非日常なことで、過去のことだと思っていました。しかし、現実でそれも日本と同じように安全と言われているヨーロッパで起きたことなのです。このことは私にとって遠い存在だった戦争、紛争をニュースなどで身近に感じさせるようになります、とても大きな驚きを与えました。ですが、それ以上に驚いたことがあります。なんと東ヨーロッパの小さな美しい国では兵士だけでなく民間人もロシア軍の標的になっていたのです。特にキーウ近郊の町ブチャでは多くの罪の無い民間人がロシア軍によって虐殺されたと聞きました。

このような争いや人権侵害、民族間での対立はロシアとウクライナの人々だけで起きている問題ではありません。私はこの出来事をきっかけにさらに民族や人種について深く考えるようになりました。

ちょうど今から四ヶ月前のことです。私は父に「どうして国が違うと争いが生まれてしまうの。」と聞きました。父は私の質問には答えず、ある映画を見せてくれました。「ミシシッピバーニング」、この映画はアメリカを舞台にした映画で一九六四年公民権運動家三人が殺害された事件をモデルとした映画で作中では黒人への迫害や当時の国家問題であった黒人への差別が非常に現実に近い様子で表現されていました。この作品の中で私が最も驚いた点は差別していた白人もされていた黒人も皆、同じ国、州、町に生まれ同じ食事をとり、同じ風景を見ているはずなのに互いを憎しみ、差別していたのです。父は映画を観終わっても私の問いには答えてくれま

せんでした。しかし、私は父が何を言いたいのかがわかりました。差別というのは、国家、民族、宗教、人種などの違いがなくても発生してしまうことがあります。

つまり差別というのは人と人が違うから起きるのではなく、互いの違いを尊重できないから起こることなのです。これは遠く離れたアメリカだけの話ではありません。私のふるさとである日本も同じ問題を抱えています。同和問題は日本で最も罪深い歴史の爪痕です。江戸時代、徳川幕府は自分達の地位を安定させるため強い身分制を確立しました。その中で苦しい生活や重税による農民達の不満をそらすために、当時動物の血などを扱っていた人達をエタ身分と呼び差別する政策を行ったのです。さらに驚くべきことはこの失策により何十年もの間人々が苦しむことになったのです。そして、明治政府が解放令を、水平社が水平社宣言を発表した後も差別は続き今日まで続いています。

最後に私が人権について世界の人達に一つ言いたいことがあります。一人一人は皆違います。同じ人なんて誰一人として存在しません。そしてその違いを認めることこそが本当に大切なことです。そして、仮にその違いを認めることが出来なくても違いを認める努力をあきらめないでください。私たちがそれをあきらめた時に戦争や紛争、差別が始まってしまいます。そして世界から差別をなくすため、あなたの隣の人から認め合いませんか。